

病防第155号  
平成27年3月23日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）  
このことについて、発生予察特殊報第2号を公表しましたので送付します。

## 特 殊 報

平成26年度発生予察特殊報第2号

平成27年3月23日  
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 トマト茎えそ病（仮称）
- 2 病原ウイルス キク茎えそウイルス *Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)
- 3 発生作物 トマト
- 4 発生確認の経過  
平成26年12月に県北の冬春トマトにおいて、葉の退緑・えそ症状、果実の変形・着色不良を呈する株が発生した。  
当所でRT-PCR法による遺伝子診断を実施した結果、キク茎えそウイルス (CSNV) が検出された。
- 5 国内の発生状況  
本ウイルスのトマトでの発生は、群馬県、鹿児島県など6県で報告されている。本県では、平成20年にキクで発生を確認しているが、トマトでの発生は初めてである。
- 6 病徴  
今回確認されたトマトでの病徴は、茎葉のえそ、葉の退緑、果実の変形・着色不良であった。その他、本ウイルスによる病徴としては、生長点付近のえそ・萎縮・褐変もある。これらの病徴は、本県でも発生しているトマト黄化えそウイルス (TSWV) によるものと酷似している（図1～4）。  
なお、周辺ほ場を調査したところ、感染はしているが葉や生長点で病徴がほとんど観察されない株もあり、症状が全身に現れない場合もある。
- 7 病原ウイルスの特徴
  - 1) TSWVやメロン黄化えそウイルス (MYSV) と同じトスポウイルス属のウイルスでミカンキイロアザミウマ（図5）によって媒介される。本虫の1齢幼虫が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、成虫となってから死ぬまで伝搬（永続伝搬）する。なお、保毒成虫から卵を通じた次世代への伝搬（経卵伝染）はない。本虫は野菜類、花き類、果樹類に広く寄生する。
  - 2) 種子伝染や土壌伝染はしない。
  - 3) 本ウイルスによる病害は、国内ではトマト以外にキク、トルコギキョウ、ア

スター、ピーマンで発生が確認されている。

## 8 防除対策

- 1) 発病株は抜き取り、土中に埋設するか焼却するなど適切に処分する。
- 2) 媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。
- 3) ほ場周辺の雑草は、ミカンキイロアザミウマの発生源、越冬源となるので除草を徹底する。特に開花中の雑草には、成虫が飛来し寄生・増殖するので、除去する。
- 4) 青色の粘着トラップを設置し、発生時期、発生量の把握に努める。
- 5) コナジラミ類の対策で開口部を被覆している0.4mm目合い防虫ネットはミカンキイロアザミウマの侵入防止にも効果があるので、隙間や破損が無いように点検する。
- 6) 収穫終了後には、施設を密閉し、ウイルスを保毒した虫の野外への拡散を防ぐ。

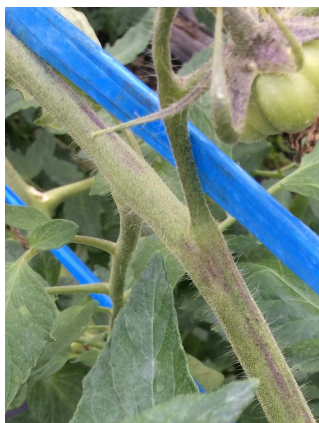


図1 茎のえそ症状



図2 葉のえそ症状



図3 葉のえそ症状 (拡大)



図4 果実の変形・着色不良



図5 ミカンキイロアザミウマ雌成虫

問い合わせ先  
熊本県病害虫防除所  
(農業研究センター 生産環境研究所  
病害虫研究室 予察指導係)  
担当：児玉、荒木 TEL：096-248-6490